

平成17年人口動態統計（確定数）について

本資料（概況及びホームページ掲載表）は、平成17年人口動態統計の確定値をとりまとめたものである。

（「平成17年人口動態統計月報年計（概数）」は平成18年6月に公表済みである。）

分母に人口を用いる出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率及び合計特殊出生率・年齢調整死亡率は、平成17年国勢調査による確定人口公表後、算出・公表する。（平成18年12月予定）

1 出生数は減少

出生数は106万2530人で、前年の111万721人より4万8191人減少した。

母の年齢（5歳階級）別にみると、出生数は前年に引き続き29歳以下で減少し、35歳以上で増加傾向となっているが、平成12年から増加していた30～34歳は減少に転じた。

出生順位別では、第1子から第3子以上に至るまで前年より減少したが、母の年齢（5歳階級）別と併せてみると、35歳以上の各階級で第1子と第2子が増加している。（第4表）

2 死亡数は増加

死亡数は108万3796人で、前年の102万8602人より5万5194人増加した。

悪性新生物（がん）の死亡数は32万5941人で、死亡総数の30.1%を占めており、死因順位の第1位となっている。第2位は心疾患（心臓病）、第3位は脳血管疾患（脳卒中）となっている（第5表）。

3 自然増加数は減少し、マイナス

自然増加数（出生数から死亡数を減じたもの）は△2万1266人で、前年の8万2119人より10万3385人減少し、統計の得られていない昭和19年から21年を除き、現在の形式で統計をとり始めた明治32年以降初めて出生数が死亡数を下回った。

4 死産数は減少

死産数は3万1818胎で、前年の3万4365胎より2547胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は29.1で、前年の30.0を下回った。

死産を自然・人工別にみると、自然死産の前年に対する減少数は、平成16年が356胎、17年が786胎であるのに対し、人工死産は16年が609胎、17年が1761胎であり、人工死産の減少幅が大きい（第1表、第2表－1）。

5 婚姻件数は減少

婚姻件数は71万4265組で、前年の72万417組より6152組減少したが、その減少幅は前年の1万9774組に比べて小さくなっている（第2表－1）。

6 離婚件数は減少

離婚件数は26万1917組で、前年の27万804組より8887組減少したが、その減少幅は前年の1万3050組に比べて小さくなっている（第2表－1）。

※ 「概況」以外の「人口動態統計年報 主要統計表」と「都道府県別にみた中皮腫による死亡数の年次推移（平成7年～17年）」は、厚生労働省ホームページの「統計調査結果」のサイト（<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei05/index.html>）に掲載している。